

風のように

甘木教会



主任牧師：白川道生 牧会委嘱牧師：竹田孝一

「真理の霊が来ると、
あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。」

ヨハネ16：12

【説教要旨】

本日は三位一体主日です。「唯一の神の中に、三つの独立した「位格（父なる神、子なるイエス・キリスト、聖霊）があって互いに神の本質を共有している、という教理です。三つの位格が一つであり、一つが三つ」という教理を理解する難しさがあります。奥村神父は、 H_2O （水）という化学記号を用いて、 H_2O は、水、蒸気、氷という三つであるが、 H_2O という一つの化学記号で表現出来、水、蒸気、氷を現すというような説明をしています。「しかし」というものが私の中に残ります。私たちは理解しようとしめます。信じるには、理解することが当たり前のように思いますが、結局は信じるかいなかです。それが三位一体という教理は、理解を超えていることであり、理解するというよりも信じることだと特に私につきつけてきます。そして、信じるということから自然に理解、受け入れるということが起き、日々の信仰生活が深められていきます。

主は、聖霊の到来によって「その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。」と語られます。

その方、聖霊は、自分から語るのではなく、ただ聞いたことを語

るのです。誰から聞いたのか。それは神からです。神ご自身が語られたことを聖霊は語るのです。神ご自身が語られることは、イエス・キリストを通して示された出来事です。聖霊が語るのは、イエス・キリストを通して示された神のみ心です。「三つが一つであり、一つが三つ」ということです。

「父が持っておられるものはすべて、わたしのものである。だから、わたしは、『その方がわたしのものを受けて、あなたがたに告げる』と言ったのである。」

先週の聖霊降臨日に聖霊は、働かれ、霊の働きは、イエスさまを通して示された神の業、神の愛が継続して今日も三位一体という力をもって、私たちに働いています。

に「神の霊があなたがたの内に宿っているかぎり、あなたがたは、肉ではなく霊の支配下にいます。キリストの霊を持たない者は、キリストに属していません。ローマの信徒への手紙8:9」。

キリストに属してということは、どういうことかということです。『神の霊があなたがたの内に宿っている』ということです。神の霊を自分の内に宿すものは、神の霊によって導かれる者は皆、神の子なのです。ローマの信徒への手紙8:14」

キリストに属する私たちは、神の霊によって導かれる神の子なのです。ここに私たちは導かれているのです。社会が大きく変化しようと、その変化で自分たちが大きく動揺されようと、神の子であるキリストに属する者は、揺ぎ無い安心感、安定があるのです。遠藤周作さんが、復活以前の不安に脅えてだらしない弟子が、復活、昇天、聖霊降臨を体験したのち、これが同じ人間なのかと思うほどの人となり、殉教をも恐れない人へ変化していると言われます。神の霊があなたがたの内に宿っているかぎり、あなたがたは、肉ではなく霊の支配下にいます。あなたがたは、神の子であるキリストに属する者とされた姿を証しています。神の子であるキリストに属する者の安定感が彼ら弟子

を大胆に変えていったのです。神の子であるキリストに属する者とは、パウロは、大胆にもこのように告白します。

ところで、わたしたちは、このような宝を土の器に納めています。この並外れて偉大な力が神のものであって、わたしたちから出たものでないことが明らかになるために。わたしたちは、四方から苦しめられても行き詰まらず、途方に暮れても失望せず、虐げられても見捨てられず、打ち倒されても滅ぼされない。わたしたちは、いつもイエスの死を体にまとっています、イエスの命がこの体に現れるために。わたしたちは生きている間、絶えずイエスのために死にさらされています、死ぬはずのこの身にイエスの命が現れるために。こうして、わたしたちの内には死が働き、あなたがたの内には命が働いていることになります。「わたしは信じた。それで、わたしは語った」と書いてあるとおり、それと同じ信仰の霊を持っているので、わたしたちも信じ、それだからこそ語ってもいます。主イエスを復活させた神が、イエスと共にわたしたちをも復活させ、あなたがたと一緒に御前に立たせてくださると、わたしたちは知っています。すべてこれらのことは、あなたがたのためであり、多くの人々が豊かに恵みを受け、感謝の念に満ちて神に栄光を帰すようになるためです。

（Ⅱ コリントへの信徒の手紙4:7－15）

私たちが恐れおののきつつ生き、翻弄され、倒れそうになる厳しい時代にいます。この私たちを倒す風とは違う風－三位一体の**神の霊**、神の風が私たちのうちに吹いています。

神の霊があなたがたの内に宿っているかぎり、あなたがたは、肉ではなく霊の支配下にいます。ここを生きることが、四方から苦しめられても行き詰まらず、途方に暮れても失望せず、虐げられても見捨てられず、打ち倒されても滅ぼされないという出来事を私たちに与えられます。神の霊によって導かれる者は皆、神の子なのです。

牧師室の小窓からのぞいてみると



今の世界は、人、そのエゴに支配されている。罪の世界である。悪魔に支配された世界である。いつ世界大戦が起きても不思議でない限界まで来ていると感じている。終わりである。恐竜は突然の隕石が衝突し、地球の環境が変わり死滅していった。人間は、巨大化したエゴというもので、全てが変わり死滅していくだろう。終末は、近いとつくづく感じる。

力強い者だけが生き残るか。歴史から学ぶことはもっとも弱かった哺乳類が進化し、生き残っていった。強いものが残るのではない、弱い者が残るのである。

弱い私たちは「たとえ明日が終わりであっても、今日りんごの苗を植える」と希望をもって、信仰の忠実さを生き抜こう。

園長・瞑想？迷走記



歴史のある私立幼稚園、公立の幼稚園の閉園が続いている。出生数が70万人を切って、少子化が止められず、また、社会の変化、保護者の働き方の変化で、幼稚園から保育へという流れを止められない。色々な要因があるが、人の志の低下ではないであろうかと思う。一方、もう志だけではことは運ばない社会もある。

長時間を幼稚園、保育園の施設に子ども過ごすことは、誰でも子どもの成長にどうなのかと思っている。しかし、保護者の多くは共働きをしないといけない社会状況がある。

現状の社会のシステムをもって経営を安定化させ、保育の質を確保していくということは不可能に近い。しかし、この不可能に挑戦しても良いのではないかと思う。ここは神の支配するところだからである。神の、キリストの香りする幼稚園作りをするのがキリスト教主義の園長の迷走、そうして瞑想、現実ではないかと思っている。

日毎の糧

8:4 あなたの天を、あなたの指の業を／わたしは仰ぎます。月も、星も、あなたが配置なさったもの。

8:5 そのあなたが御心に留めてくださるとは／人間は何ものなのでしょう。人の子は何ものなのでしょう／あなたが顧みてくださるとは。

8:6 神に僅かに劣るものとして人を造り／なお、栄光と威光を冠としていただかせ

8:7 御手によって造られたものをすべて治めるように／その足もとに置られました。

詩篇8：4～7



ルターの言葉から

王であるキリストは、・・・・・・私たちのために、霊のからだ、すなわち教会をも飾ってくださいます。福音宣教を通して教会を集め、聖霊によって飾ってくださるのです。

『マルティン・ルター日々のみことば』鍋谷堯爾編訳 いのちのことば社

神は顧みて下さる

私たちとは。「あなたが御心に留めてくださるとは／人間は何ものなのでしょう。人の子は何ものなのでしょう／あなたが顧みてくださるとは。」。「神に僅かに劣るものとして人を造り／なお、栄光と威光を冠としていただかせ、 8:7 御手によって造られたものをすべて治めるように／その足もとに置られました」天地を創造なさった神は、人を顧みてくださいました。神の創造の秩序の中で、顧みられた存在であるのが私たちです。だから、私たちは、創造の世界で、孤独ではありません。だから、私たちだけが存在するのではないということを知るものが私たちなのです。

ですから、同時に神の創造の秩序を守るのが私たちで、私たちはもっと創造の秩序が神の愛に貫かれるように努力をしなくてははいけません。地球の環境が人によって崩されていく時代だから人々にこのことを伝えていくのが宣教です。

祈り：主よ、愛をもって創造の秩序を治める私たちとしてください。

甘木通信

「パンのみにあらず」



ロバのパンやさん、つまり菓子パンは知っていたが、食事でパンを食べることを知ったのは小学校に入ったときで、コッペパンであった。まだまだ、食パンなど知らなかった。

1964年の東京オリンピック後、日本の食卓も西洋化され、小学校5、6年ごろ食パンが出てきたことを覚えている。しかし、食パンはまだ高く、食パンを主食とするのは上流階級の文化人だった思っていた。だから、まだまだ食パンにコンデンスミルクを付けてあるいは貴重なバターを塗り、砂糖を付け菓子のように食べていた。

大学に入り、吉祥寺の喫茶店で、モーニングというものがあるのを知って、そのとき朝食の主食として焼いた厚いパン、その上に塗られたバターの味は忘れない。

その間、サンドイッチなるものを金持ちの子からいただいて、世にこんなものがあるんだと驚いたり、それを遠足の弁当にしてもらったことを覚えている。

「戦後のパン食の普及は、パンと相性が良い牛乳やチーズなどの酪農食品、野菜、豚肉、牛肉などの食品の普及、促進に深く関わりました。その結果、多様な栄養素をバランスよく摂取できる理想的な「日本型食生活」が実現したとされています。」（「パンの歴史館」山崎パン）

この時代を生きた自分は、いまだに食パンをお菓子のように食べ、至福になっている。

(甘木日記)土) 松崎保育園の運動会に出席。子どもたちの楽しい姿、ドラマは気持ちが良い。夜に甘木教会へ。日) 花の日礼拝。幼児は1名だけが高校生、大学生、社会人の若い子どもらが出席。鯉のぼりの片づけに大学生、社会人の若い子らが手伝ってくれる。感謝。月) 幼稚園で仕事。火) 大雨警報、注意報が出される中で、保護者参観日。幸いすべて解かれて、無事に参観日を終える。水) 年少の保護者参観日。雨の休みの間をみて、伸びきった枝の剪定、プール遊びの屋上の掃除。職員会議で終了。木) 甘木の日。午前中は松崎保育園で聖書の学び、花の日の礼拝。金) 社会見学の引率、職員会議議事録作成、屋上の掃除で終わる。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。ぐちらない聖人（牧師）もいます。

土）松崎保育園の運動会に家内と一緒に出席。子どもたちの楽しい姿、ドラマを見ながら、息子の時代、運動会は、日曜日にあり、礼拝と重なり、見に行けなかったことが多かった、今となったら申し訳ないという気持ちになる。夜に甘木教会へ。家内が明日の花の日の礼拝のお菓子詰めの準備をしているのを見ながら感謝と後、どのくらい出来るのだろうかと思う。

日）花の日の子どものためにM引退牧師がカードを信徒さんが一輪の花を用意してくださる。子どもの出席は1名だが、高校生、大学生、社会人が出席。礼拝後の掃除。大学生、社会人の子が鯉のぼりをし



（白妙菊）

まうことに協力してくれる。社会人の子は、J施設で子どもの世話をしていると聞く。こういう出会いも嬉しい。頑張っ

てねと祈る。幼稚園を掃除しながら憩える場を作りたいと思いが強くなる。（むしとりなでしこ）花壇に珍しい花が。体調は徐々に回復しているが気を付けよう。火）大雨警報、注意報の中で、保護者参観日もあり、幼稚園を開園するかどうかを判断することになる。早朝、保護者に向けて今日の予定をメール発信。幸い無事にすべてを終わる。今までは次男と一緒に判断し、本当に助かったが今は一人。大きな青大将かシマヘビが幼稚園の塀の上を移動している。次男は手づかみで捕まえていたことを思い出す。水）年少保護者参観日。初めてクラスを持つ先生だったのであまり覗かないようにしていたが、落ち着いて子どもたちに寄り添いながら保育をしていた。頑張れ、よっし！と心で応援。力強い先生に助けられている。今日だけが雨の休みと聞くので、伸びきった枝の剪定、プール遊びが行われる屋上の掃除。後日さらに水圧機ケルヒャーを使い掃除をしよう。水圧で綺麗になっていくのは快感。やるぞ！職員会議で終了。病人にしてはよく動く。治ったのかな。次の精密検査が楽しみ。木）甘木教会の日。午前中は松崎保育園で聖書の学び、花の日の礼拝。花の日礼拝の意味を「人」という字を分解して話す。ここでも虫好きな園児がいるという。良いな。午後から教会。空が激変し雨が激しく降る。室内で書類作り。S園に在園していた家族が寄ってくださる。ちょうどk園長もおられていたのでよかった。やっぱり教会、幼稚園を開けておくと何かが起きる長男から父の日のプレゼントでふく刺しと酒をもらう。小さい時から色々と気を遣わせていた。申し訳ない。金）夏帽子を選ぶに迷う妻に「一つだけでなく、それも買ったら」と。そう言える年になった自分がある。今週は、ここで終わり。

